

各分科会での JCO 事故をめぐる論点

平成 11 年 11 月 15 日

項 目	論 点	指 摘 事 項 の 例 (注)
安全確保	安全確保の基本的考え方	事故は起こるとの前提に立った対策 深層防護等により「事故を起こさない」とする考えと、防災対策での「事故を想定する」考え 過去の教訓をどう生かすか 安全とコスト 人を信頼して安全を確保してきた日本型社会から、モラルの低く、リスクの高い社会に移行する中での安全管理の考え方の見直し
	原子力安全確保体制のあり方	原子力安全委員会の能力、陣容 緊急時対応システム ルールが守られないことを前提にした安全確保 安全性に関する中立的(第 3 者)監視機関(事故調査及び日常の現場監視) 社会科学的な面からの事故調査
	安全規制のあり方	安全に関する国と設置者の責任 規制のバックフィット モラル低下を前提にした安全確保体制、検査 事業者の自立を高める施策と法規制 国情にあった規制(慣習的、介入的、法律的)

	教育のあり方	国民の原子力・放射線についての教育のあり方
	情報提供のあり方	多様な受け手が必要とする情報の正確かつ迅速な提供のあり方 ・メディアの誤解による2次混乱の防止 ・住民の健康不安解消のための適切な情報提供 平常時における住民への防災対策の説明
危機管理		危機管理体制のあり方と国・地方自治体・事業者の役割の明確化 多様な受け手が必要とする情報の正確かつ迅速な提供のあり方 危機管理における原子力関連機関の協力体制 「事故は起こるもの」とした平素からの対応
経営・組織・人	企業経営と安全確保	経営者の自己責任による安全確保 安全についての外部監査の導入 経済性追求と安全確保の両立 モラル低下、組織に内在する問題の検知 現場従事者の処遇
	原子力関係者の安全意識・モラル	安全文化の構築と維持、他者との共有・相互啓発の仕組み 同業者のネットワーク化、異分野専門家間の議論 教育訓練のあり方 技術者倫理の構築 倫理教育 中間管理職と現場の関係 事故による原子力関係者のモラルダウンの懸念 技術革新への対応の遅れ→競争力低下→合理化→モラル低下のサイクル
エネルギーセキュリティ		セキュリティの観点からの、フロントエンド産業、核燃料サイクルのあり方

原子力産業		原子力のような国策的事業の運営形態 安全文化の構築と維持、他社との共有・相互啓発の仕組み 技術の継承、保持の方策 リストラ、合理化による専門家の減少
研究開発活動	技術の継承等	技術の継承・保持の方策 技術力の空洞化現象 技術開発を軽んずる風潮 研究活動に伴う安全確保
	研究者・技術者のモラル・倫理	モラル向上、啓蒙のための教育 技術力向上のための教育・研修 日本特有の社会・組織体制の問題（終身雇用のため、「習うより慣れろ」の仕事やり方） 技術者倫理の構築 倫理教育 先端的研究開発分野からの学生離れの加速の懸念
放射線の健康影響	放射線の健康影響	放射線による健康影響 被曝医療（国内外の協力体制、事故後の精神的不安へのケアを含む）
国際関係	国際的情報発信のあり方	諸外国の反応にかかる情報収集 情報発信による国際的信頼の確保

（注）論点間で指摘が重複する場合がある